令和５年度　自己評価計画書（中間報告）

石川県立志賀高等学校

重点目標		具体的取組		現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善
1	学力の向上 一人一台端末の活用を通して、魅力ある教材及び指導法の工夫等により、生徒の学ぶ意欲を高め基礎学力の向上を図る。		・ＩＣＴを活用して生徒が安心して取り組むことのできる授業を実践し、生徒の学習意欲を高める。	授業改善により工夫を凝らした授業実践（ＩＣＴの活用等）が定着しつつあり、学習意欲が高まったと答える生徒の割合が 69%である。	【成果指標】 学習意欲の向上を図るため、工夫を凝らした授業（見通しカード、ＩＣＴの活用、学びあい）を実践する。	「ＩＣＴ機器の活用や、授業中の学び合いによって、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：75%以上～90%未満である。 Ｃ：60%以上～75%未満である。 Ｄ：60%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ａ (92%) ※生徒 (5)	相互授業参観等，授業改善への取り組み状況はやや実感が薄いが，生徒からは高い評価を受けた。後期に向けて内容の伴う授業改善に取り組む。
			・学習目標を明確にし、努力の手段や方法をわかりやすくすることで学習意欲喚起を図り、家庭学習時間を増やす。	学習意欲の高まりが家庭学習時間の増加につながり、家庭学習時間の平均が１時間以上であった生徒の割合は 67%である。	【成果指標】 努力目標と手段方法の明確化により、家庭学習に自主的に取組み、学習時間が増加する。	家庭学習時間調査の集計結果による、１日平均学習時間１時間以上の生徒の割合が Ａ：80%以上である。 Ｂ：60%以上～80%未満である。 Ｃ：40%以上～60%未満である。 Ｄ：40%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ｂ (67%)	考査後の家庭学習への取り組みが悪く，特に１・２年生の考査後の学習量の落ち込みが大きい。新しい取り組みを生かし，家庭学習時間を増やす。
2	進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教育を充実するとともに、個に応じた指導を充実させ、進路実現（第１希望１００%）を図る。	①	・進路説明会、社会人講座や企業見学会等により、進学や就職に対する意欲や必要な態度を身につける。	説明会等が参考になった生徒が 93%いたものの、年度当初において自己の進路についての意識が低く、進路未定者が若干名いる。	【成果指標】 生徒は進路説明会や講座等を進路決定のために参考にしている。	「進路説明会、社会人講座、各種マナー講座や企業見学会等が早期の進路決定のために参考になった。」と答える生徒の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：80%以上～90%未満である。 Ｃ：70%以上～80%未満である。 Ｄ：70%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ｂ (84%) ※生徒 (4)	一定程度の評価は得たが生徒のニーズとの乖離が若干見られる。より一層学年団と連携をとり、学年の実状を把握し、生徒のニーズを汲み取っていく。
		②	・保護者や関係機関と連携を深め、個に応じた進路指導の充実を図る。	基礎学力や理解力の違いがあるものの、91%の保護者が情報提供に満足され、適切な時期に適切な内容の進路情報が提供できていた。	【満足度指標】 保護者に進路について必要な情報が必要な時期に提供されている。	「学校が提供した個別の進路情報に対して満足している。」と答える保護者の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：80%以上～90%未満である。 Ｃ：70%以上～80%未満である。 Ｄ：70%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ａ (91%) ※保護者 (12)	個に応じた情報提供により高評価である。今後は更なる個に応じた適切な情報提供、進路行事を学年団と連携して行っていく。
3	基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、挨拶の励行を中心とした基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	①	・いじめアンケートを年３回以上実施するとともに、生徒全員に面談の回数を増やす。	個人面談の継続した実施等により、いじめに対する学校の毅然とした取組に対して 78%の生徒は評価している。	【満足度指標】 生徒が学校はいじめに対しての取組をしっかり行っているととらえている。	「学校はいじめに対しての取組をしっかり行っている。」と答える生徒の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：80%以上～90%未満である。 Ｃ：70%以上～80%未満である。 Ｄ：70%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ｂ (87%) ※生徒	個人面談の継続やいじめに対する学校の毅然とした取り組みの結果、87%とＢ評価であった。引き続き継続して取り組んでいく。
		②	・保護者と連携を図り、生徒自らも家庭でのスマートフォン等の使用のルールづくりに取り組む。	保護者と連携した結果、家庭生活でスマートフォン等の使用のルールが守られているとした保護者は 58%であり、継続的に啓発していく。	【成果指標】 保護者が家庭内ルールづくりと子どもに遵守させることに努め、マートフォン等の使用の規範意識を高める。	「家庭において、スマートフォン等の使用のルールが守られている。」と答える保護者の割合が Ａ：60%以上である。 Ｂ：50%以上～60%未満である Ｃ：40%以上～50%未満である。 Ｄ：40%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ｂ (50%) ※保護者	アンケートの結果を保護者に周知し、共通理解を持って指導したが 50%とＢ評価であった。今後も家庭内ルールの遵守の継続に向けて保護者・生徒会と連携していく。
		③	・毎日登校指導をするとともに、全教員、生徒会、ＰＴＡと連携した挨拶運動週間を設定する。 ・授業規律としての挨拶指導をする。	教職員の 95%は生徒がしっかり挨拶をしているととらえている。今年度も継続できるように、教職員が率先垂範して啓発普及に努める。	【成果指標】 登校や授業等において挨拶をしっかりする生徒が増加する。	「生徒は挨拶がしっかりできている。」と答える教職員の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：80%以上～90%未満である。 Ｃ：70%以上～80%未満である。 Ｄ：70%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ａ (100%) ※教職員	アンケートの結果 100%と高い評価であった。後期も教職員が率先垂範しつつ、生徒会と連携した挨拶運動週間等を設ける等、取り組みを強化する。

令和５年度　自己評価計画書

石川県立志賀高等学校

重点目標		具体的取組		現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善
		④	保健委員による定期的な美化活動や環境衛生に努め、整理整頓の習慣化を図るために、机ロッカーすっきり週間を設定する。	整理整頓の状況に改善は見られたものの、日常の点検結果が満点に達するクラスは固定されており、増えなかった。今年度は、担任の意見を取り入れて点検項目を設定する等、担任との連携を更に強化し改善を図りたい。	【成果指標】 教室や身のまわりの整理整頓、健康で安全な生活を送る行動を自主的に実践する生徒が増加する。	「身のまわりの整理整頓を心がけ、校舎内の清掃活動の際に自ら進んで環境美化に取り組むことができた。」と答える生徒の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：80%以上～90%未満である。 Ｃ：70%以上～80%未満である。 Ｄ：70%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ａ (95%) ※生徒	AB の合計が 95%、各学年でも 90%以上であった。今後も環境美化や整理整頓の要点を具体的に伝えるようにし、自主的に取り組む態度の育成を学校全体として取り組む。
4	地域との連携 地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを総合的な探究の時間を通して推進する。	①	・ホームページの充実や志賀高だより等の配付物を定期的に発信し、情報発信の強化を図る。	本校の教育活動を理解している保護者は 88%であり、更なる強化に努める。	【成果指標】 定期的に学校の様子を外部に発信する。	「ホームページや志賀高だより等の情報発信が積極的に実施され、学校の取組がよく分かり、本校の教育活動が理解できた。」と答える保護者の割合が Ａ：90%以上である。 Ｂ：80%以上～90%未満である。 Ｃ：70%以上～80%未満である。 Ｄ：70%未満である。	ＣＤは具体的な改善策を検討する。	Ａ (90%) ※保護者 (8)	AB の合計が 90%であり、高評価を得ることができた。日ごろから学校行事を詳細に掲載し、継続してきた結果である。今後も取り組んでいく。
		②	・関係機関等と連携した教育活動を充実させる。	教職員が積極的に地域交流に取り組んでいると答える保護者の割合が高い。更なる強化に努める。	【努力指標】 地域・保護者と連携し、地域から信頼される学校づくりに積極的に取り組んでいる。	教職員の地域交流に参加し、地域に支えられている魅力ある学校づくりに、 Ａ：積極的に取り組んでいる。 Ｂ：取り組んでいる。 Ｃ：あまり取り組んでいない。 Ｄ：取り組んでいない。	Ａの割合が 50%未満の場合、改善策を検討する。	Ａ (95%)	志賀ロータリークラブや地域ボランティア活動等の地域交流を行い、生徒の個性を伸ばすために積極的に参加している。
5	教職員多忙改善 時間管理を意識し、業務の分担と協力体制の確立およびＩＣＴの活用により、業務の効率化を図る。	①	・教職員の働き方を更に見直し、担当業務に対してタイムマネジメントを徹底し、業務の平準化に取り組み、時間外勤務の縮減を図る。	本校教職員の超過勤務時間は県の平均レベルではあるものの、特定の個人の超過勤務が課題である。 業務の平準化やタイムマネジメントを図りたい。	【成果指標】 担当業務対する、見通しを持ち、タイムマネジメントを意識して、時間外勤務が 40 時間以内を目指す。	タイムマネジメントを意識し、業務に見通しを持って取り組み、毎月の平均超過勤務時間が、 Ａ：40 時間以内を達成した。 Ｂ：45 時間以内であった。 Ｃ：55 時間以内であった。 Ｄ：55 時間を超過した。	ＣＤの合計が 50%は具体的な改善策を検討する。	Ａ	ＡＢ合計で８９％であったが、Ａだけでは３２％と低く、年度始まりの校務が影響している。教職員のタイムマネジメントが意識されるよう改善する。
					【努力指標】 各課・学年主任が時間管理や業務の平準化に積極的に取り組んでいる。	各課・学年主任が業務の平準化に取り組み、メンバー一人ひとりが業務に見通しを持って、 Ａ：取り組めた。 Ｂ：まずまず取り組めた。 Ｃ：あまり取り組めなかった。 Ｄ：ほとんど取り組めなかった。	Ａの割合が 50%未満の場合、改善策を検討する。	Ａ	ＡＢ合計で８９％である。昨年比の割合より５ポイント増加している。新年度に伴い分掌のメンバーを大きく入れ替え平準化が功を奏した。